理氣之說

文三　平野コウ

秋日獨り舍窓に倚り靜かに天地の光景を雙眸の中に收め思想遂に理氣に及ぶ時に傍に人あり問ふて曰く「今かく見る所の萬物如何にして生じ而して死して何處に往くや」と答へて曰く「君理氣なるものを知れるや」と曰く「知らず」と「理氣を知らずんば宇宙の萬象を解すべからず請ふ君の爲めに聊か之を說かん」。

凡そ天地萬物大は灝氣漲る秋空より小は禽獸草木蟲魚に至るまで而して斯く言ふ我等人類に至るまで一として氣の實體ならざるはなし其氣たるや類別多しと雖も畢竟一元氣に過ぎず一元氣は萬物の樞紐にして又一大根柢たり一大原素たり故に之を元氣と云ふ然り元氣は萬物を造れども萬物は氣にあらず、氣なるものは虛にして空而して神靈なるものなり宛も理化學に云ふ原子の如きものなり君知らずや理學者天地の秘を奪ふと曰ふと雖も未だ嘗て一馬一木の生動するものを作る能はざるを唯造化の爲せるものゝみ能く行き能く動く彼は死物にして此は生物なるを奈何にせん宇宙の秘は此の一事に在り元氣が人物を作りて生命を吹きこむの妙は人智の到底知る所にあらず之を是れ靈と謂ひ妙と謂ふべし此れ即ち氣なり。

而して氣の物となるに自ら法あり一元氣は陰陽二氣に分る易に一陰一陽之れを道と云ふと言へる以て證とすべし陰陽二つのものは循環してやまず宇宙に盈虛消息往來感應す之を是れ天の道といふもし陰陽を以て分割すべきものとなせば天地萬物絕滅するや久し四時に因りて之れを觀れば春夏の候に萬物生長するは陽氣の作用にして秋冬の候收藏するは陰氣の作用なりしかれども秋冬の收藏は春夏の生長を爲す所以にして夏春の中秋冬あり秋冬の中に春夏あり即ち此れ陽中に陰あり陰中陽あるなり之を男女に徵せんか陽氣を受くるの厚くして多きものは男と爲り陰を享くるの厚くして多きものは女となるもの是なり而して二氣又分れて五行となる五行は五氣なり五氣は木火土金水なり此の氣萬物となる萬物の初め氣を以て化して生ずこれを氣化と謂ふ氣聚りて形を成す

則ち形交り氣感じ終に形を以て化して人物生ず、これを形化と謂ふ形化と云ひ氣化と言ふ名は異れども其の大源は即ち一元氣のみ斯の如くにして萬物生ず此故に生なるものは天地の大德にして易に所謂天地之大德曰レ生もの是なりされば進みて死につきて說かん凡そ萬物死枯するは天の數也我等之れを悲哀すと雖も理氣の作用を知るときは死は歸なりと曰へる古人の言の我を誣せざることを悟り得べし君我俱に今生あり此れ氣の聚れるなり而して死は氣の散ぜるなり然れども死は氣の絕滅するにあらずして聚の盡きたるなり仁齋先生曰く「我父祖既に逝きて今見ゆるに由なしと雖も實は我身に依りて生きつゝあり我逝くも子孫の上に生きて死することあらざるなりと君其れ彼の秋草を觀よ凋落の秋一度めぐり來りて花墜ち葉枯れ枯死せるが如くなれども土中既に來年更生の地をなすなり何ぞ此れを以て死したりと爲すべけんや」と友曰く「然るときは萬物は生ありて死なきか」と曰く「然り然り」と更に友に問ふて曰く「有レ物有レ則とは何の謂ぞや」と答へて曰く「此れ氣あれば理ありと謂ふに仝じくして則は即理なり而して理は氣中の條理なり氣は體にして理は性なり前者は動にして後者は靜なり」古來理前氣法を唱ふものあれども誤れり何となれば玉ありて始めて文理あり文理ありて玉あるに非らざればなり。

理分して四となる曰く元亨利貞是なり之れを天の四德と曰ふ之を五行に配當すれば本氣の理は元なり火氣の理は亨なり金氣の理は利なり水氣の理は貞なり而して土氣は在らざるなし何を以て之れを認むるか曰く春夏秋冬序をなして萬古變せざるは理之れが樞紐となればなり斯くして理氣なるものは宇宙を構成す「我等今目擊するところの萬物皆太極の一分子なるは吾人亦其の中の一類に漏れずして宇宙の中に浮游するが一小形骸も造物者の造るところにして宇宙は吾人と一躰なることを思へば自重せざる可からざるなり」と友聽き終りて得て然として曰く「我大に覺る所あり更に深察精究せん」と拜謝して去れり。（大正七、一、一九）

用問答體說得精微而明暢可謂傑作　劍堂評